

公民館等を活用した夜間学び直し推進事業

実施主体	備前市
講座名	備前で学び直し
参加対象	備前市、岡山市、瀬戸内市、赤磐市、和気町、兵庫県上郡町、赤穂市等近隣市町村(令和2年度以降は県内近隣市町村のみ)
実施場所	備前市(備前市立日生中学校)
日時	月2回程度 午前6時30分～9時
※実施日と場所を固定して実施	○令和元年度 9月14日開始 実施回数12回・平均参加者 4.7名/回・延べ参加者56名
	○令和2年度 9月11日開始 実施回数13回・平均参加者 7.1名/回・延べ参加者92名
	○令和3年度 7月9日開始 実施回数10回・平均参加者 2.9名/回・延べ参加者29名
募集定員	なし
講師	○令和元年度 4名 日本人クラス：教員免許保有者3名、 外国人クラス：日本語学校講師1名 ○令和2年度 6名 日本人クラス：教員免許保有者5名 外国人クラス：日本語学校講師1名 ○令和3年度 4名 日本人クラス：教員免許保有者3名 外国人クラス：日本語学校講師1名
登録人数 ※うち外国人	○令和元年度 14名(10代2、20代6、30代1、40代2、年齢未確認3) ※外国人13 ○令和2年度 15名(20代12、30代1、40代1、60代1) ※外国人13 ○令和3年度 14名(20代9、30代4、40代1) ※外国人13 ※ 申し込み後、学習相談の面接を実施し、正式に参加を決定
募集の方法	ホームページ(県・市)、市広報誌に折り込み、広報・申し込みチラシを市内全戸に配布。県下公民館、子どもの支援機関、NPO法人等へ配置用チラシ配布

<p>事業の趣旨</p>	<p>教育機会確保法第14条に基づき、中学校形式卒業等義務教育を十分に受けられなかった市民や様々な理由から日本で義務教育を修了せずに日本で生活を始めることになった外国人労働者の学習機会を確保するため、学び直しの場を開設した。</p> <p>開設頻度は月2回程度とし、受講者の学習要望を踏まえた教材等を準備し行った。</p> <p>併せて、外国人労働者等を対象としたクラスも開設した。</p>
<p>事業の実施体制</p>	<p>(受託団体) 備前市</p> <p>↓</p> <p>(再受託団体 (実施団体)) 「まなび創生会」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民ボランティア ・教員 O B ・ O G ・市内 N P O 関係者 ・市役所企画課 ・市教委学校教育課 ・市教委社会教育課 <p>(協力・連携) 市立適応指導教室</p> <p>事業の周知・広報 受講希望者の掘り起し 指導内容の調整 事業後の進路ガイダンス 等</p> <p>(協力・連携) 市立片上高校</p> <p>(協力・連携) (特)岡山外語学院等</p>
<p>成果と課題</p>	<p>○ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人クラスについては、受講希望者が少ないこともあり、わからない問題についても個人のペースで対応することができ、学びの機会確保につながった。 ・外国人クラスについては、受講者の半数程度は、継続して受講されており、一定程度のニーズがあることがわかった。また、この場が、日本語の学習だけでなく、来日後に抱える同じ悩みや課題をもつ外国籍の方同士のネットワーク形成にもつながった。 ・外国籍の方の日本語教室的なニーズは一定程度あるが、備前市周

辺で日本人を対象とした学び直しの受講ニーズはあまり顕在化していないため、受講者の確保は難しいことが分かった。

○ 課題

・日本人クラスでは、広く周知を行ったが、受講のニーズが顕在化しなかった。

学習面では、2年目に、複数の受講生が希望した際に、教科書に準じてカリキュラムを組み授業を試みてみたが、受講者のニーズや学習理解度に差があり、すべてを同一の教育課程で対応することが困難であった。

・外国人クラスでは、毎年、複数の受講者がいたことから、日常会話を中心とした日本語や、日本の文化について学習を一斉で行ったが、受講者の日本語力の差がかなりあり、全ての受講者のニーズに答えることが難しいことが分かった。

また、受講者を企業等の事業所を中心に呼びかけたため、繁忙期には、受講者が激減し、参加者が0名の日もあった。

また、新型コロナウイルスの感染拡大により緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の適用のため、講座が2カ月程休講となったことにより再開後、参加者が減少してしまった。

これらの理由から外国籍を対象とした日本語教室を含む学び直しの場合は、地域性なども考慮し、日時の設定に工夫が必要なことが分かった。

どちらのパートにも共通して、様々な事情を抱えている受講者のニーズは一般の中学校以上に違うため、そのニーズに答えていくためには、より多くの支援者を確保していく必要があることが分かった。

写 真



今後について

令和4年度は、実施回数を月1回に縮小し実施予定。
指導者については、日本人クラスは、継続して教員免許保有者が指導する。
外国人クラスについては、事業費の縮小により地域の学習ボランティアに変更して実施予定。
会場については、受講生の利便性等を勘案し、市内公民館に変更し実施。

感想

日本人クラス受講者

この場所での学びは、我が子の学習を見るとき自信に繋がりました。また、支援者の先生がとても親切に接してくれてよかったです。

外国人クラス受講者

働くときに、職場の人とコミュニケーションが少しずつ取れるようになるなど、ここでの学びはとても役立った。今後も日本語の勉強を続けていきたいと思う。